

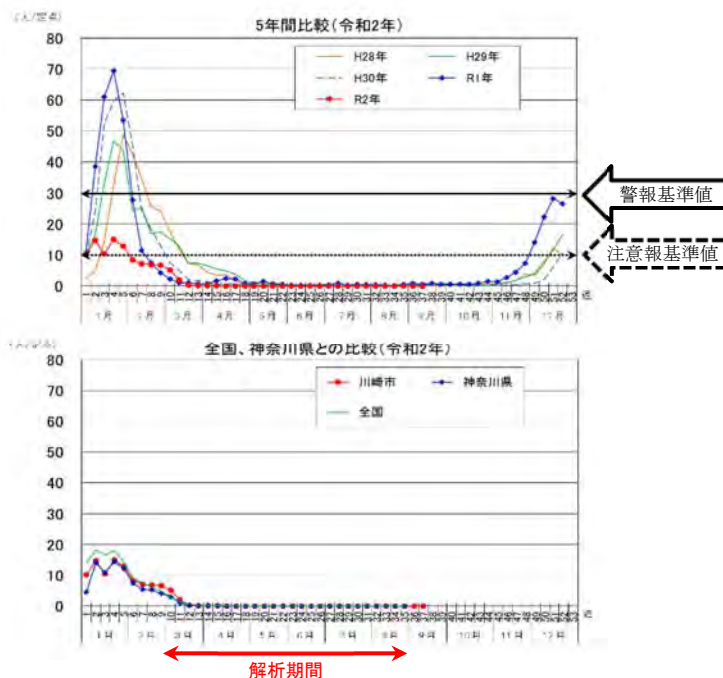
定点把握疾患の届出状況(令和2年3月～8月)

<インフルエンザ定点対象疾患>

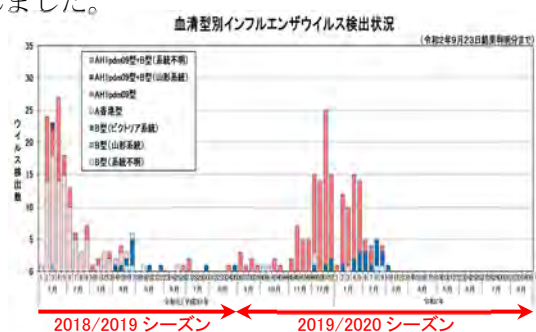
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

今期(令和2年3月～8月)は定点当たり0.30人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.21倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。2019/2020シーズンは、令和元年第44週に流行開始の目安である定点当たり1.00人を超え、昨シーズンと比べて6週間早く流行が始まりました。第49週に流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超え、第51週に流行のピーク(定点当たり28.36人)となり、第52週以降は徐々に減少しました。2019/2020シーズンは、流行発生警報基準値を超える週はありませんでした。

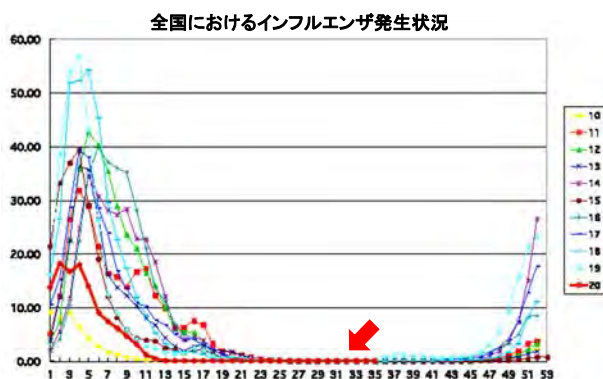


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2019/2020シーズンは、AH1pdm09型が142件、B型(ビクトリア系統)が21件、A香港型が4件、B型(系統不明)が3件、AH1pdm09型及びB型(系統不明)が1件検出されました。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

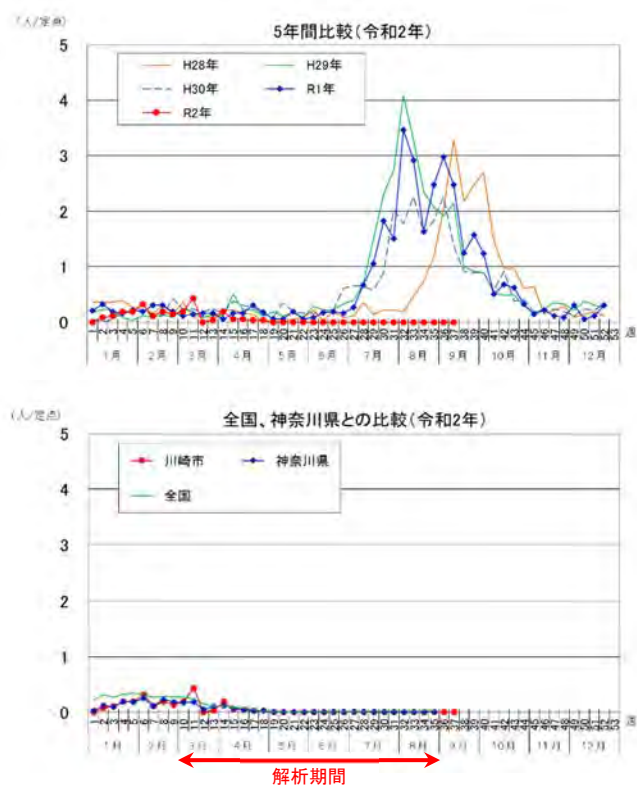


<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】

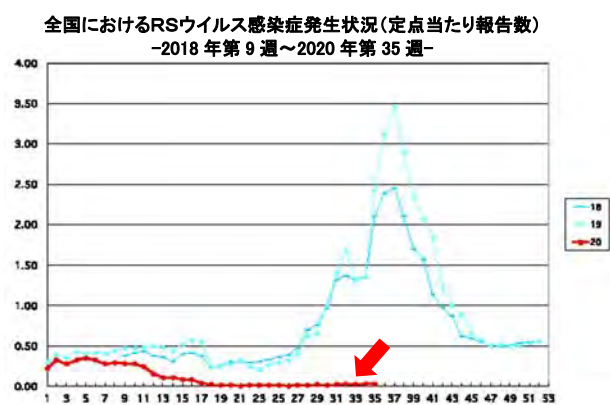
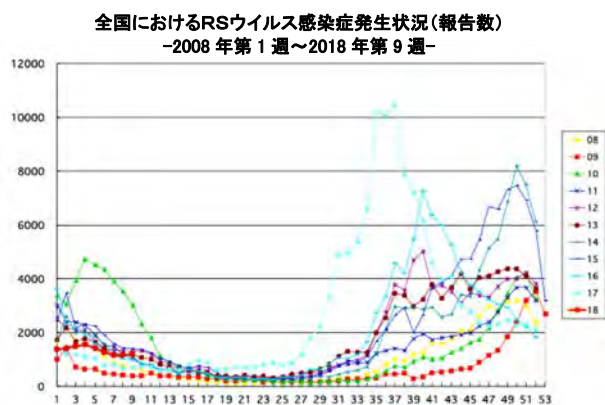
今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.08 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



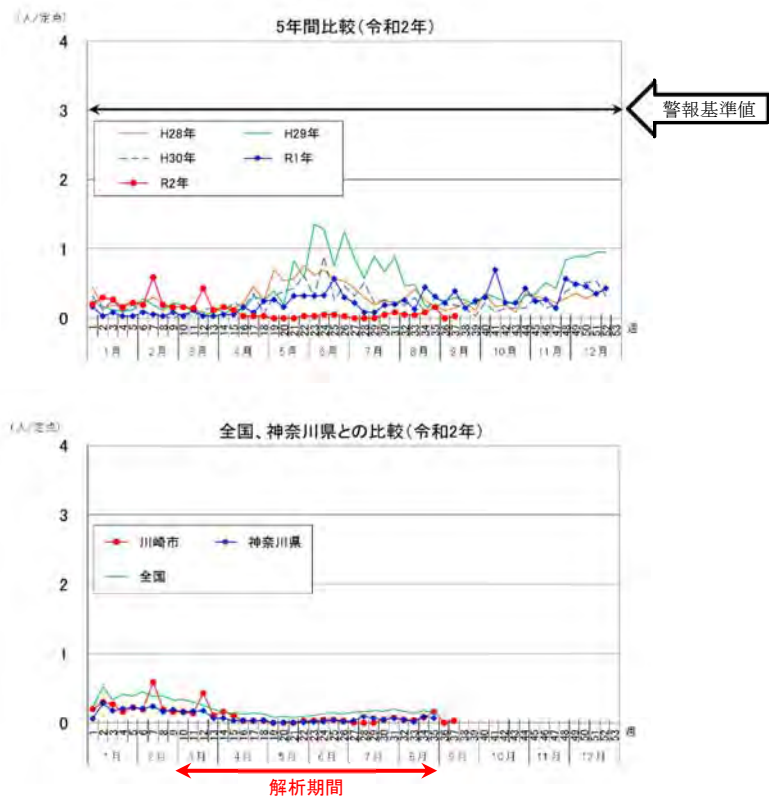
※2018年第9週(2月26日～3月4日)から、国立感染症研究所におけるRSウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.07 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.20 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（3）以上となった週はありませんでした。

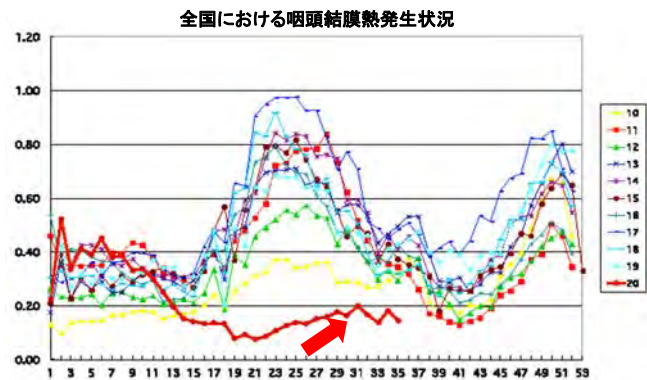


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
多摩区	女	1	R2.8.26	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 2 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

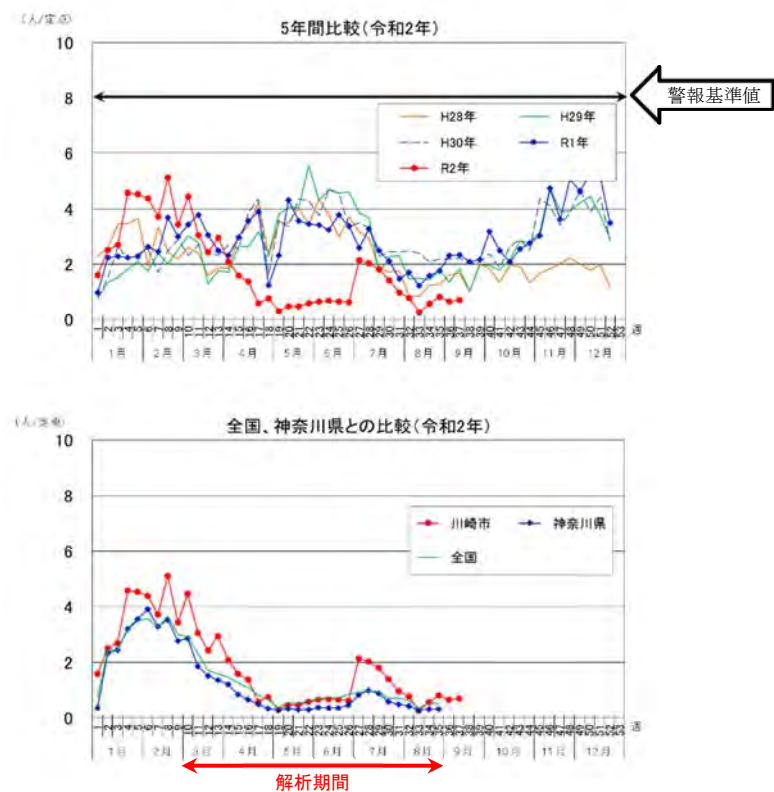


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.34 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.44 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) 以上となった週は、多摩区で第 28 週 (8.20 人) でした。

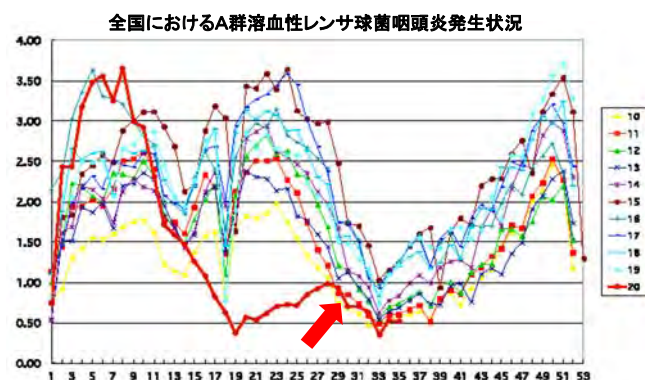


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	3	R2.3.4	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	女	6	R2.4.3	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T3
中原区	女	3	R2.4.15	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	女	4	R2.5.11	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	男	4	R2.6.1	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	男	1	R2.7.1	咽頭ぬぐい液	不検出

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

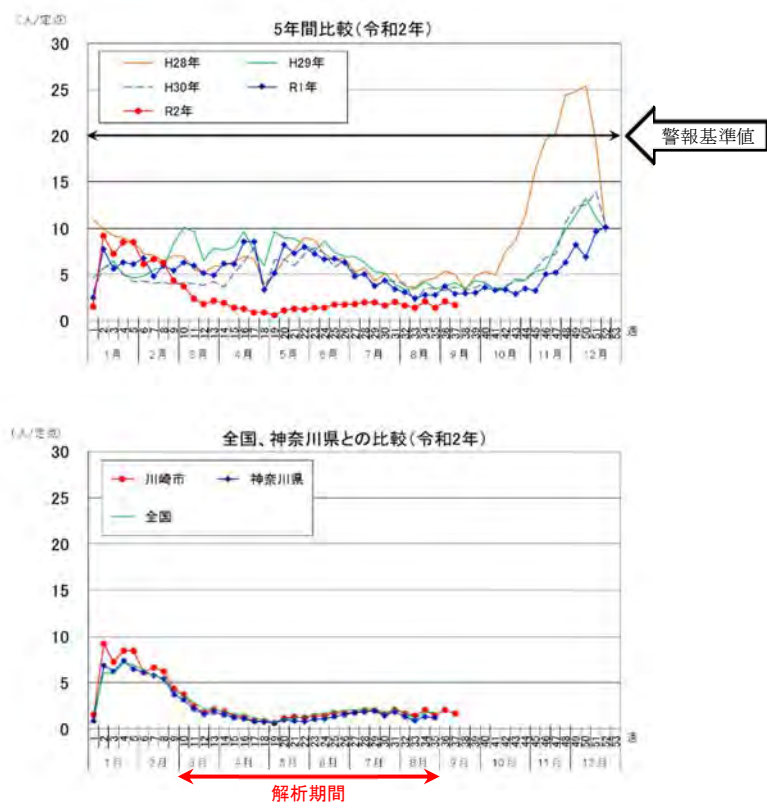


感染性胃腸炎(警報基準値: 定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.66 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.27 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) 以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

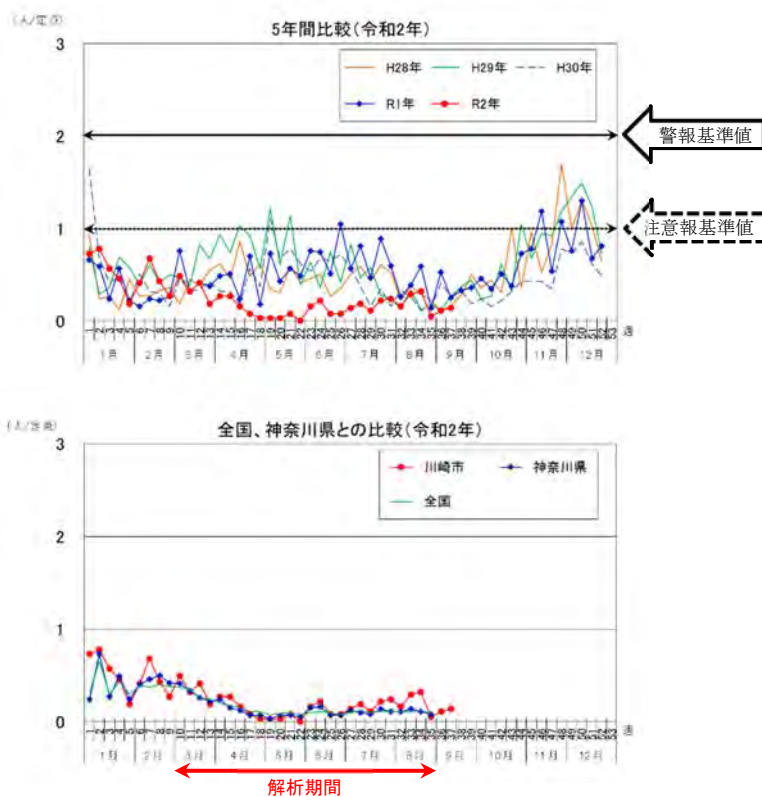


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.18 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.34 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

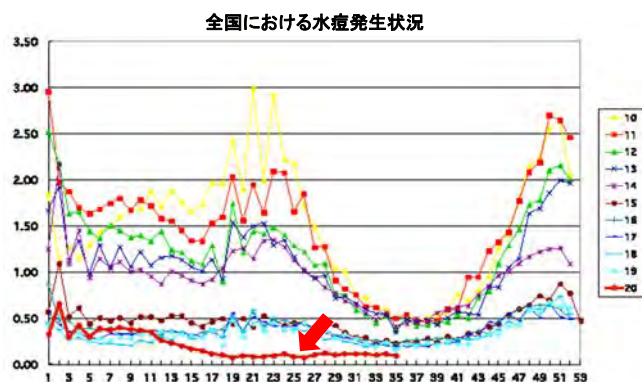
今期、流行発生警報基準値 (2) 以上となった週は、川崎区で第 33 週 (2.00 人) でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

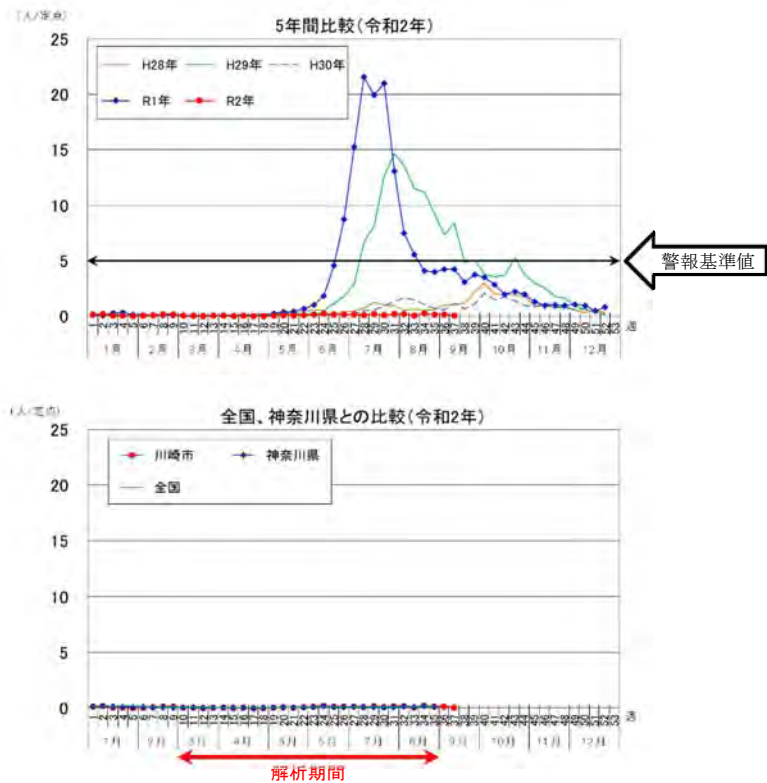


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.09 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.03 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（5）以上となった週はありませんでした。

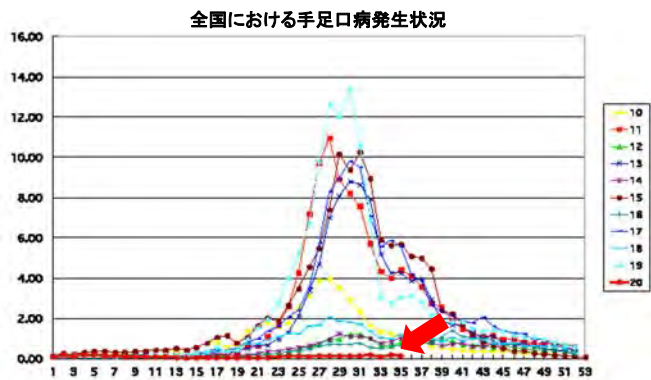


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
多摩区	女	1	R2.6.9	咽頭ぬぐい液	ライノウイルス C 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

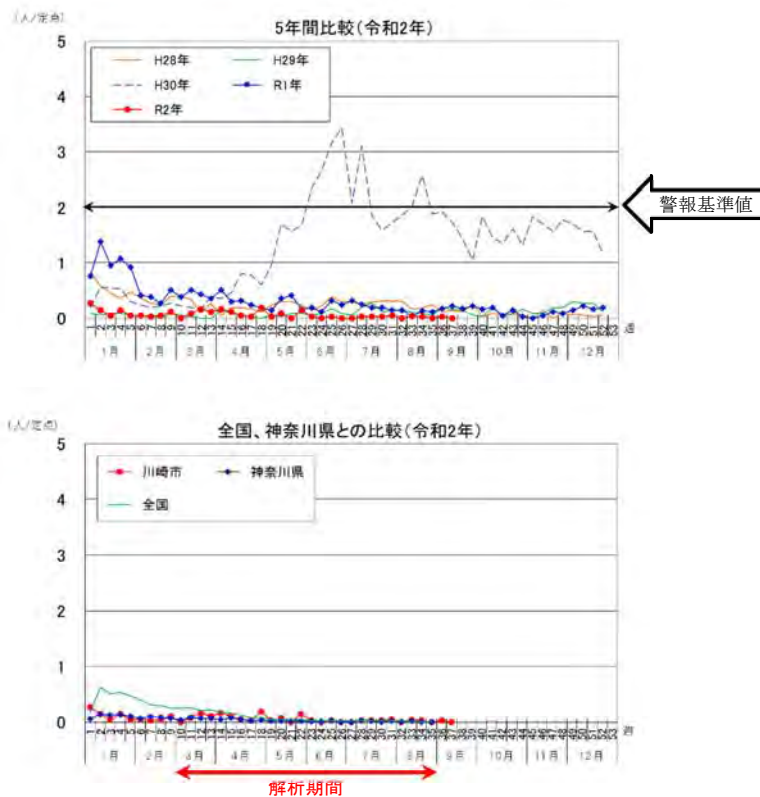


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.05 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.09 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

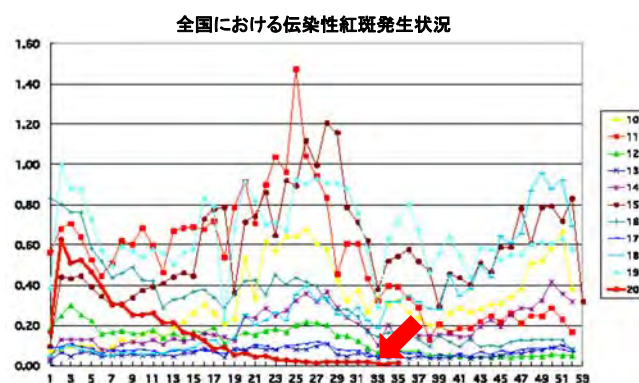
今期、流行発生警報基準値 (2) 以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

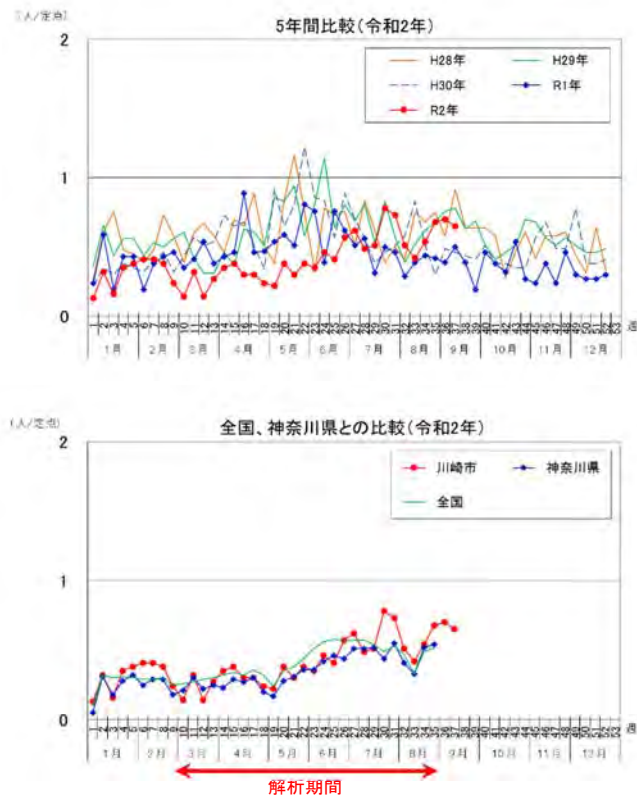


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.41 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.65 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

また、年齢階級別では 1 歳以下が 79.6%を占めていました。

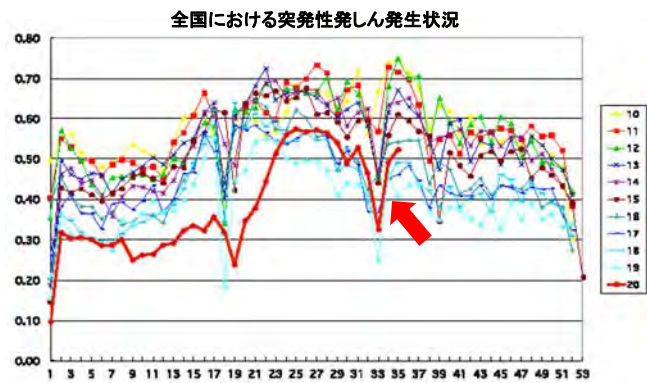


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
多摩区	女	8 か月	R2.6.11	咽頭ぬぐい液	ヒトヘルペスウイルス 6B 型
多摩区	女	1	R2.6.18	咽頭ぬぐい液	ヒトヘルペスウイルス 7 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

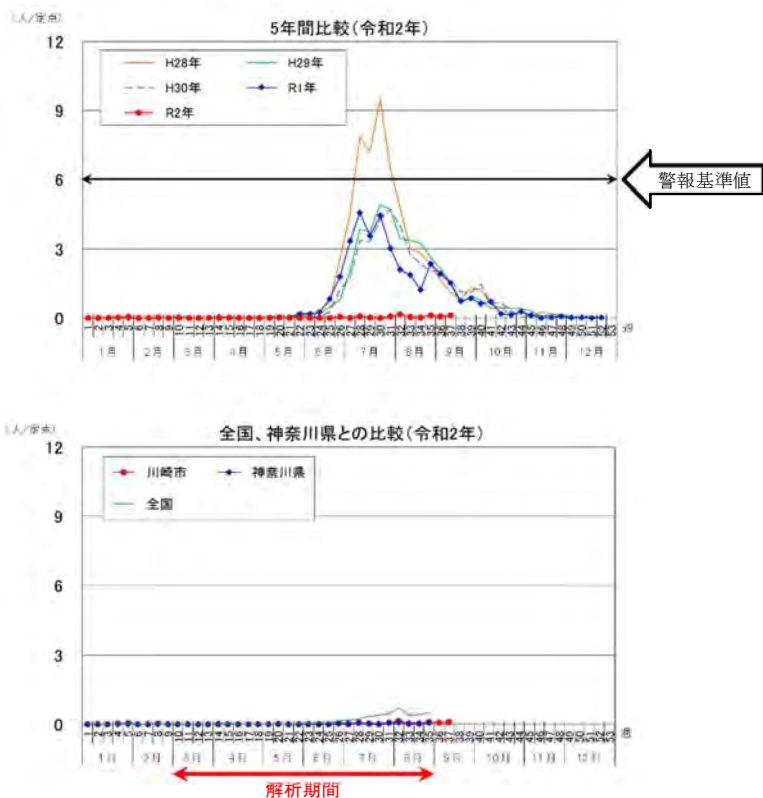


ヘルパンギーナ(警報基準値: 定点当たり 6 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.01 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

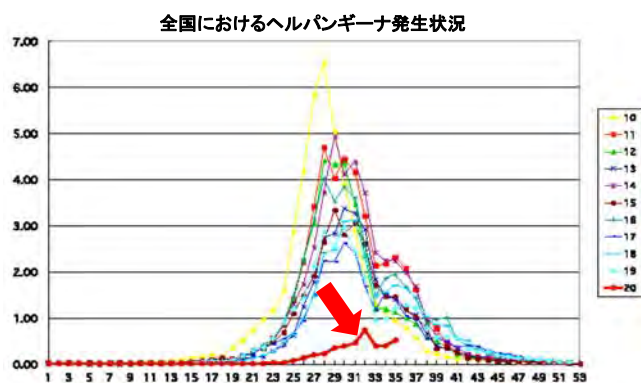
今期、流行発生警報基準値 (6) 以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

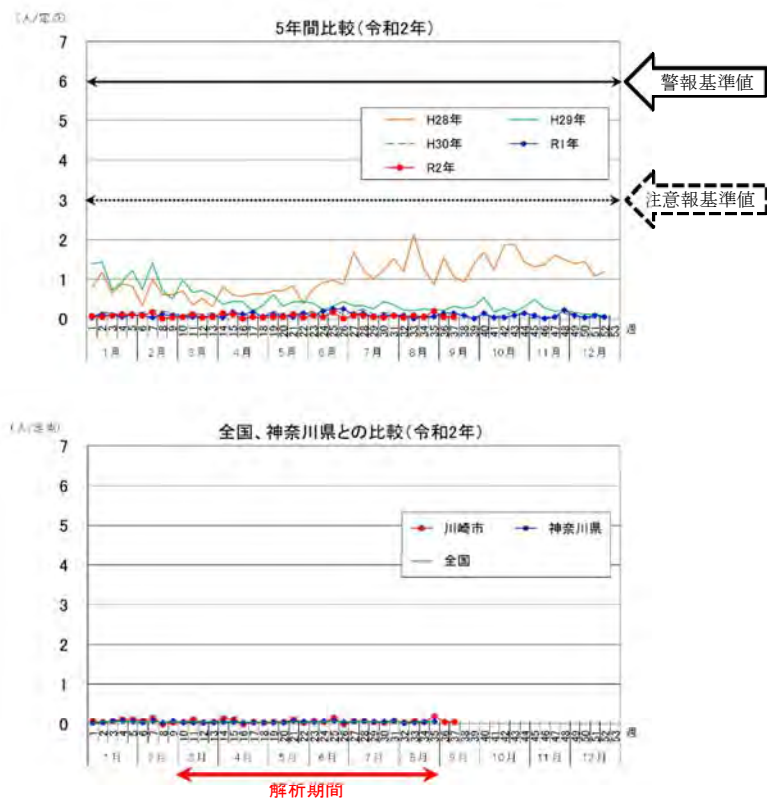


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.07 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.21 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

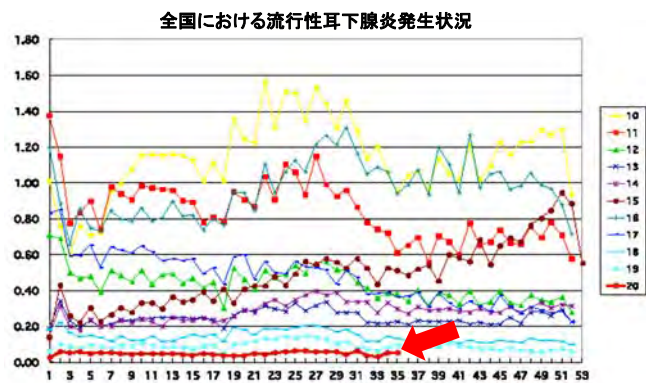
今期、流行発生注意報基準値（3）以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

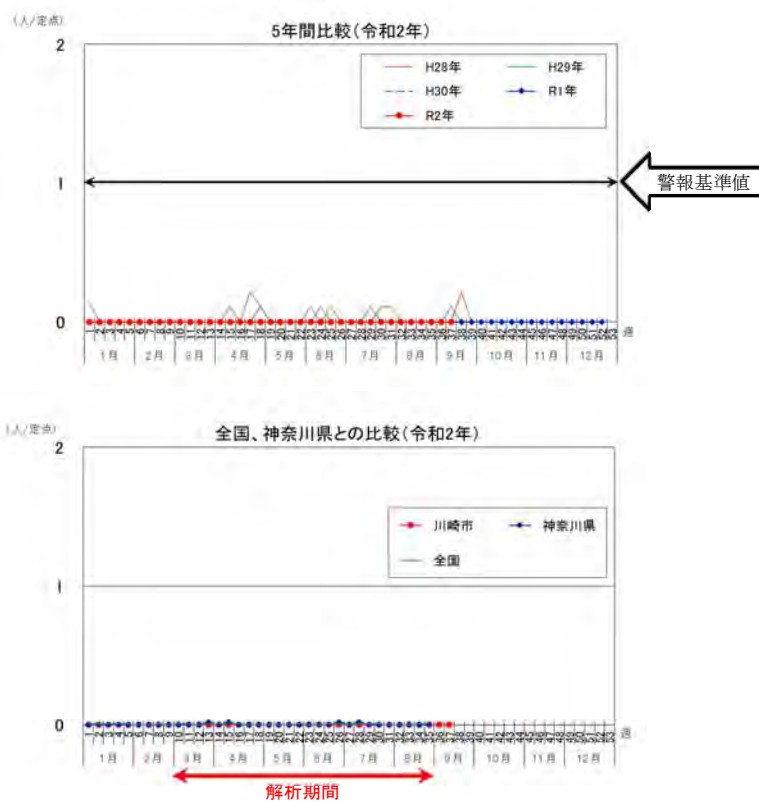


<眼科定点対象疾患>

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

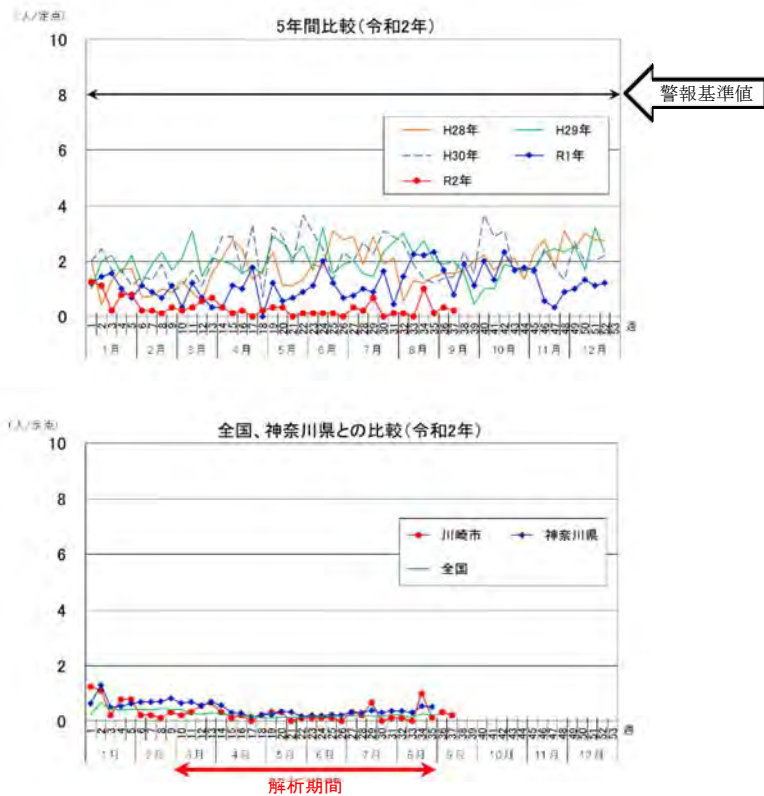


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.24 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.15 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（8）以上となった週はありませんでした。

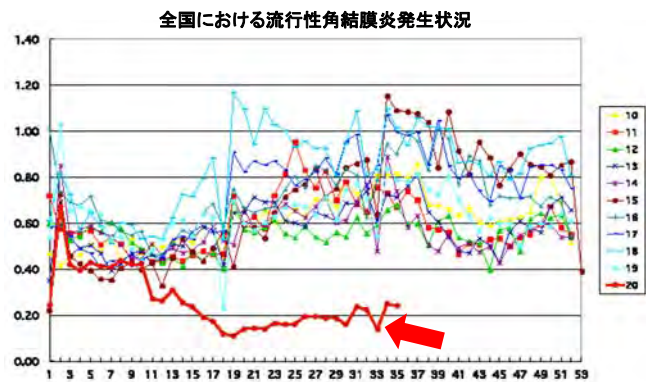


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	40	R2.3.30	眼脂	アデノウイルス 37 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

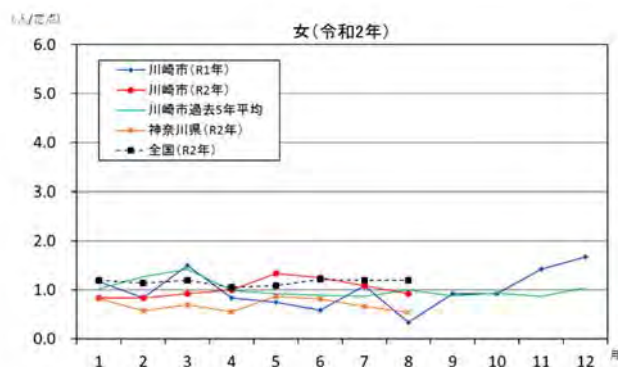
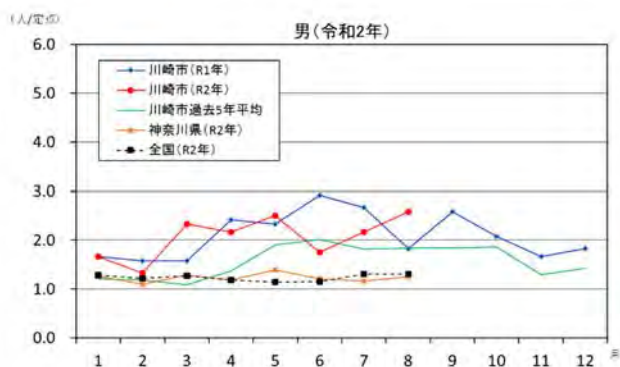
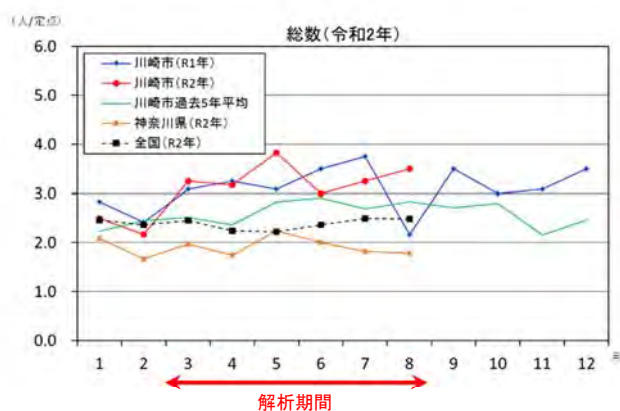


<性感染症定点対象疾患>

性器クラミジア感染症

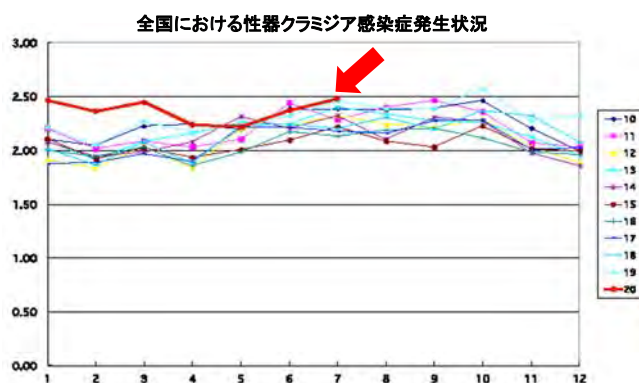
【川崎市】

今期は定点当たり 3.33 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.24 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。特に男性は例年より報告数が増加しました。



【全国及びその他】

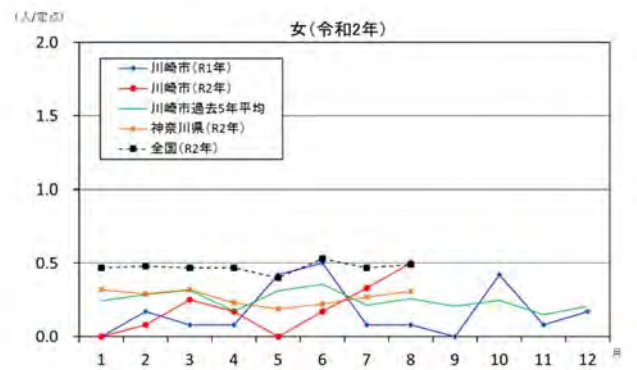
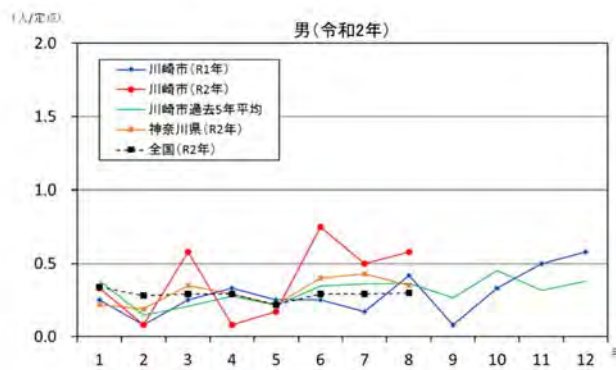
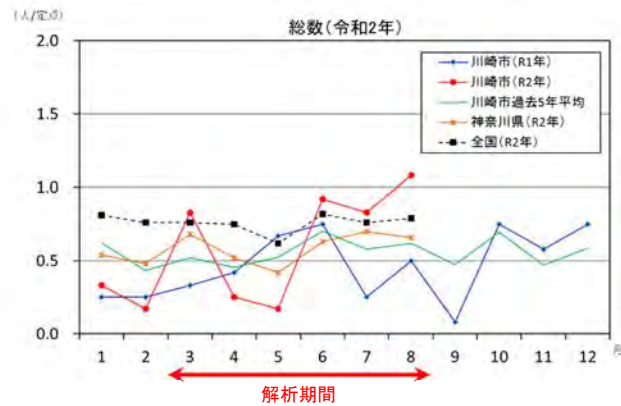
全国的にも例年よりやや高いレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

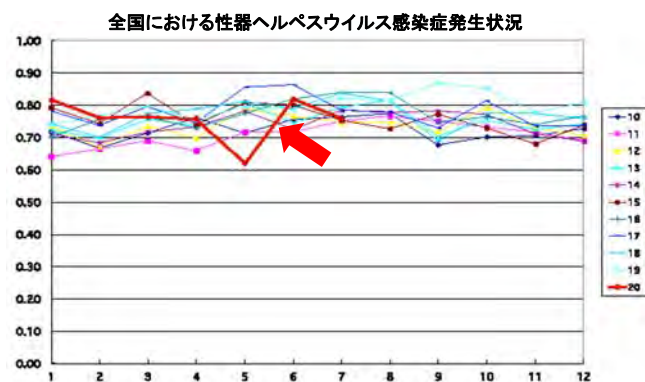
【川崎市】

今期は定点当たり 0.68 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.19 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は 3 月及び 6 月から 8 月まで、女性は 8 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

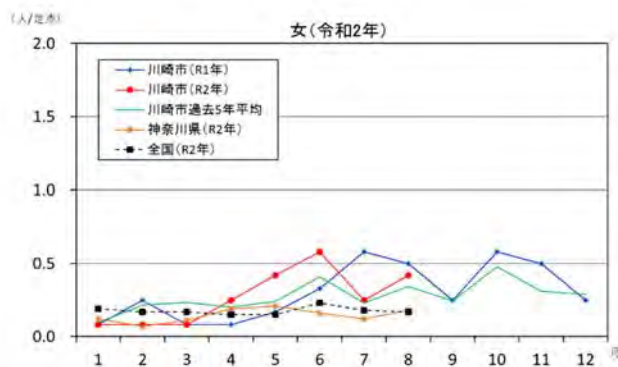
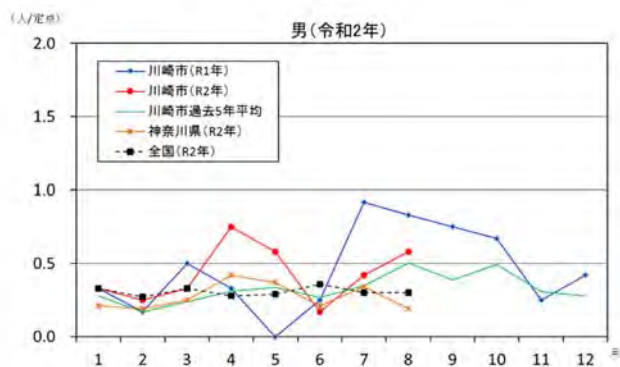
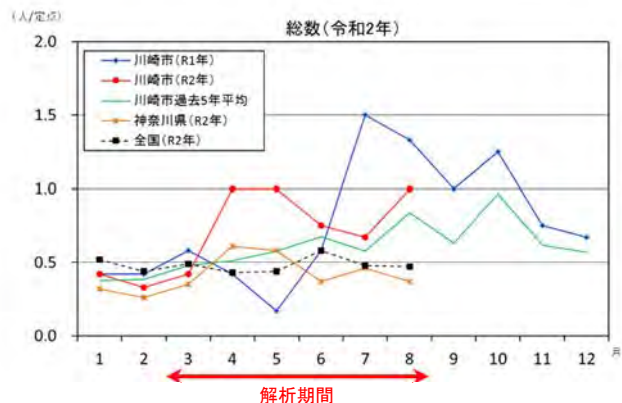
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

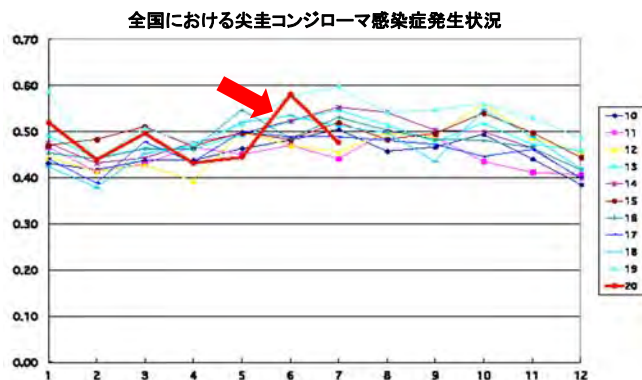
【川崎市】

今期は定点当たり 0.81 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.32 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。男性は 4 月及び 5 月、女性は 5 月及び 6 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

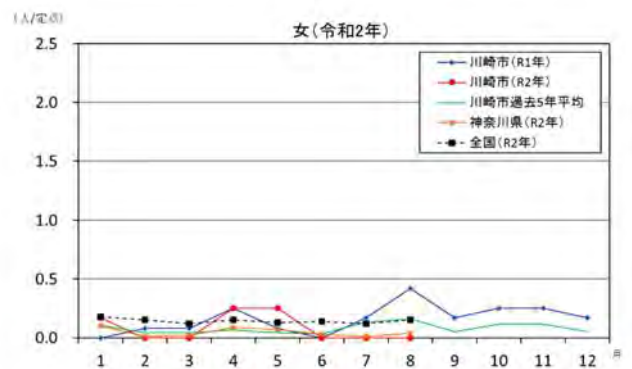
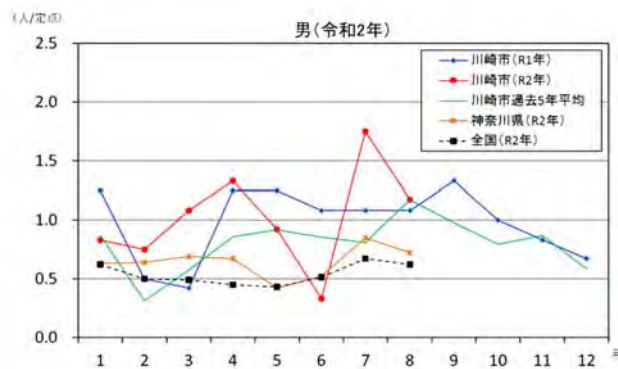
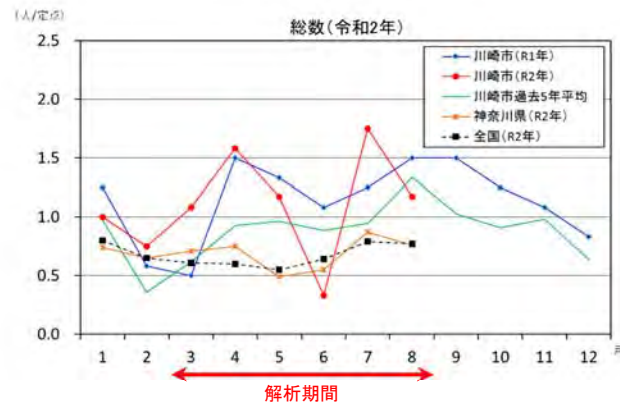
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



淋菌感染症

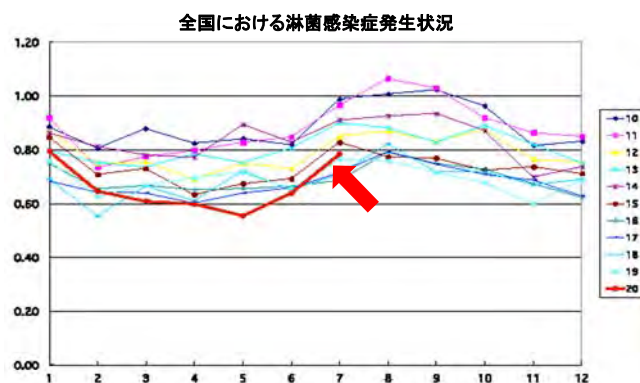
【川崎市】

今期は定点当たり 1.18 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.24 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。特に 3 月、4 月、7 月は男性の報告数が増加しました。



【全国及びその他】

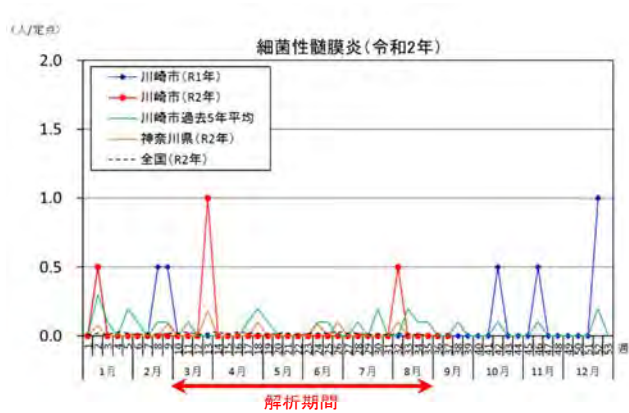
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



< 基幹定点対象疾患（週報） >

細菌性髄膜炎

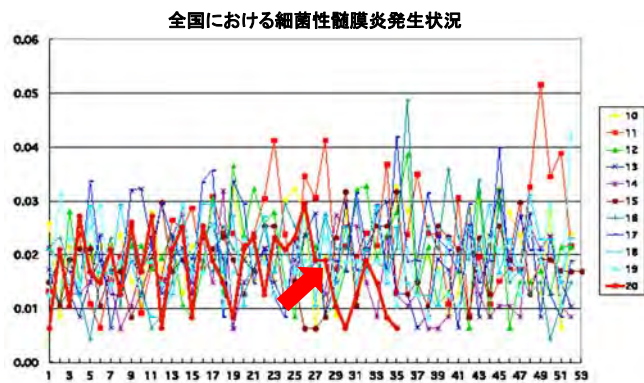
【川崎市】
今期は定点当たり 0.06 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.07 倍で、例年並みのレベルで推移しました。第 13 週に 2 件、第 32 週に 1 件の報告がありました。



なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	0 か月	女	第 13 週	髄液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
宮前区	1 か月	女	第 13 週	血液、髄液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
宮前区	81	女	第 32 週	髄液	<i>Staphylococcus aureus</i>

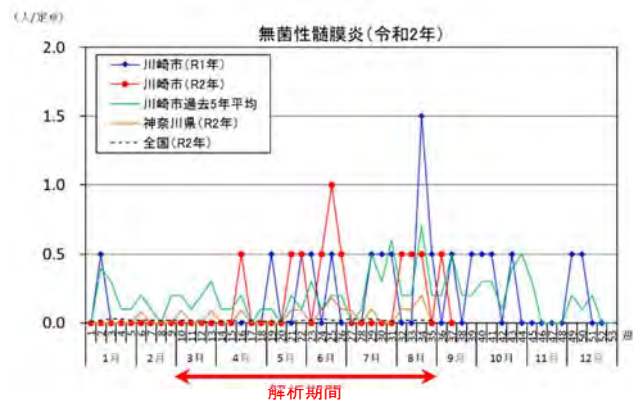
【全国及びその他】
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.19 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.94 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

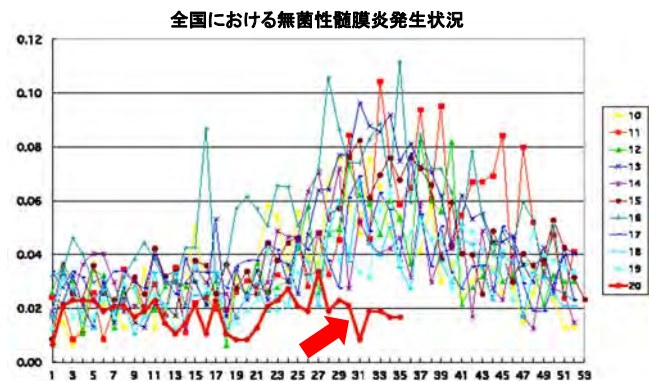


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	8	男	R2.5.22	髄液	陰性
川崎区	42	女	R2.5.25	髄液	陰性
宮前区	14	男	R2.6.9	髄液	陰性
			R2.6.9	咽頭ぬぐい液	サイトメガロウイルス
川崎区	49	女	R2.6.11	髄液	陰性
川崎区	23	男	R2.6.19	髄液	陰性
川崎区	81	男	R2.6.21	髄液	陰性
川崎区	0 か月	男	R2.8.1	髄液	陰性
川崎区	33	男	R2.8.4	髄液	陰性
川崎区	47	男	R2.8.19	髄液	検査中

【全国及びその他】

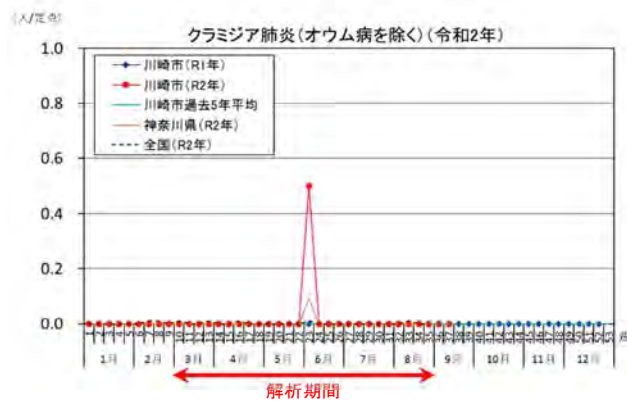
全国的には例年よりかなり低いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

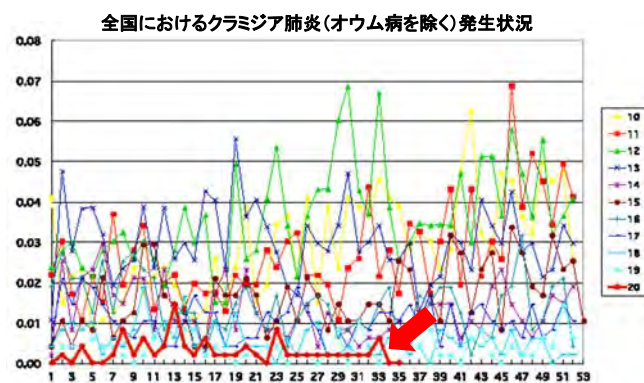
【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告がありました。第 23 週に平成 25 年第 5 週以来 7 年ぶりに 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

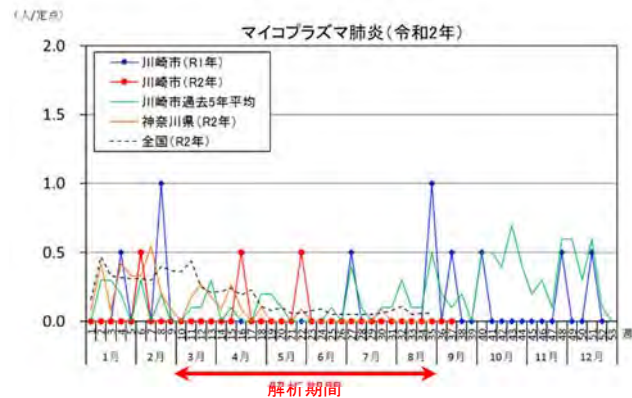
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

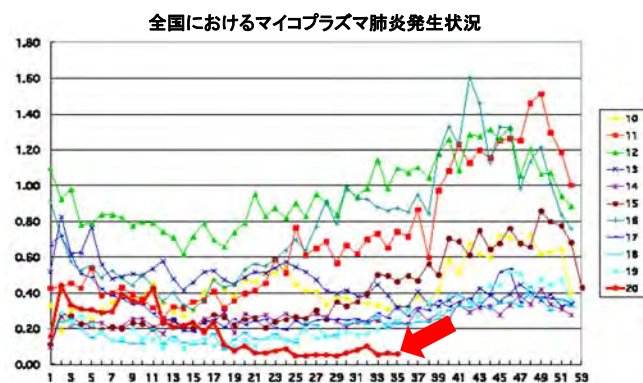
【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.35 倍で、例年より低いレベルで推移しました。第 16 週、第 22 週に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

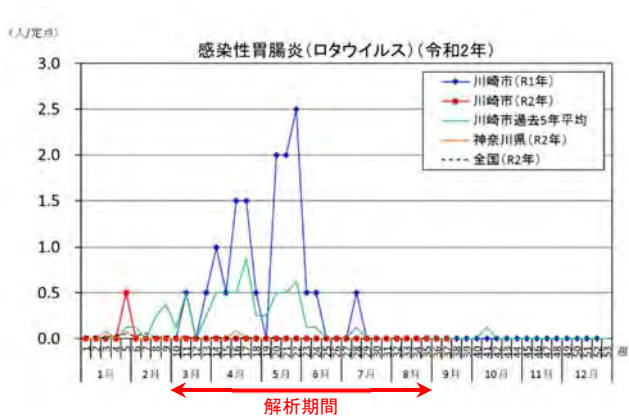
全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



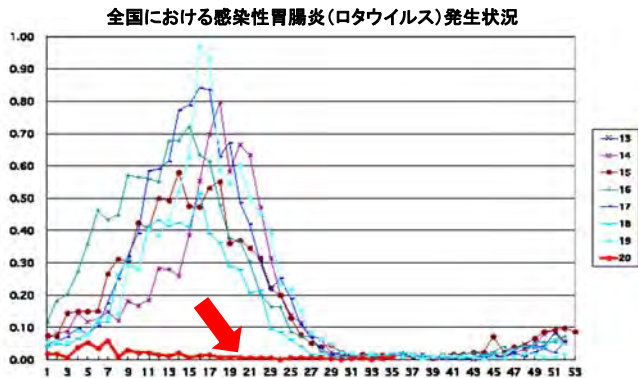
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区*	女	2 か月	R2.8.21	ふん便	ロタウイルス G1P[8]

- ※単価ワクチン：G1P[8]を成分とした弱毒生ワクチン
- ※5価ワクチン：G1、G2、G3、G4、P1A[8]を成分とした弱毒生ワクチン
単価ワクチン及び5価ワクチンについては、いずれも G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8]に効果があると添付文書に記載されている。
- *ワクチン（ロタリックス）接種3日後に発症したため、主治医からワクチン株の鑑別依頼があり検査を実施
→ワクチン株であることが判明

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

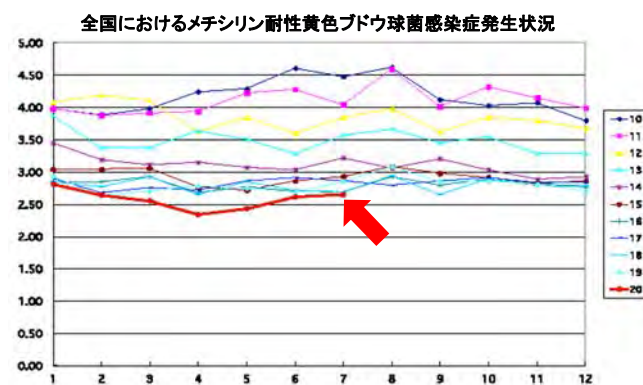


メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

今期は定点当たり 1.58 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.76 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



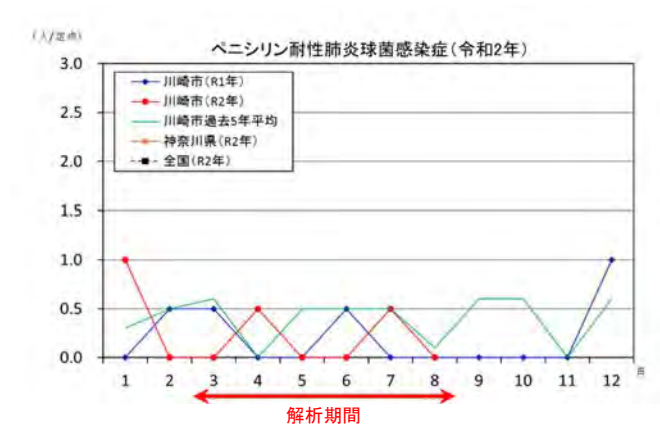
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

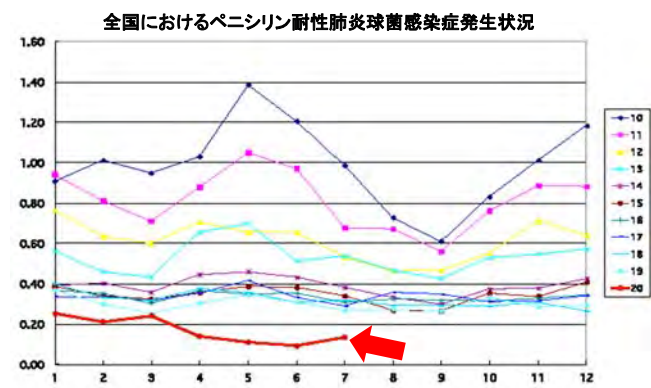
【川崎市】

今期は定点当たり 0.17 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.46 倍で、例年より低いレベルで推移しました。4 月、7 月に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.62 倍で、例年より高いレベルで推移しました。8 月に 1 件の報告がありました。

薬剤耐性緑膿菌感染症(令和2年)

月	川崎市(R1年)	川崎市(R2年)	川崎市過去5年平均	神奈川県(R2年)	全国(R2年)
1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
2	0.5	0.0	0.2	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0
9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

解析期間

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.62 倍で、例年より高いレベルで推移しました。8 月に 1 件の報告がありました。

[illegible]